

地域の中老年男性をどう助け合い活動に引き込むか

提言

男性が地域の活動に参加していくための7か条とそれを支えるカギ

- ・ 男性の活動には社会的意義が必要…生産性と役割
- ・ 男性の活動は形から入る…カッコいいことが重要
- ・ 男性の活動はしゃべらなくてできることがあることが大切
- ・ 男性の活動は縦社会ではない
しがらみのないことが大切
- ・ そもそも男と女は違う 違いを認めてほしい
男は目的のために集まる
- ・ 広報の方法が大切
そもそも新聞は読んでも回覧板は見ない
- ・ 学習から入ることも大切
→その陰には褒め上手の女性の力がカギ

登壇者

【進行役】	勝部 麗子氏	(社福) 豊中市社会福祉協議会福祉推進室長
	大下 勝巳氏	おやじの会「いたか」世話人
	加藤 由紀子氏	(特非) ふれあい天童理事長
	戸谷 友隆氏	豊中あぐりプロジェクト運営委員会運営委員
	初鹿野 聡氏	(特非) みんなのくらしターミナル代表理事
	原藤 光氏	「おんどりクラブ」会長

議事要旨 勝部 麗子氏

今回のサミットの大きなテーマの一つが定年後の男性がなかなか地域に出てきてくれない…という問題でした。出てきてくれたと思うと競争社会で生きてきたわけですから、横並びの地域活動に効率性などを持ち込み、なかなか馴染んでもらえない。私たちの周りでは、地域活動の担い手であった女性たちが、夫の定年とともに地域活動を卒業する姿を多く見受けました。「えっ、お宅のご主人定年?」「そうやねん。…朝ご飯食べたらず、昼ご飯はいつや。晩ご飯は?と。苦痛やわ」と。しかし考えてみると、高度経済成長時代の団塊世代以上の男性たちは、生活のすべてを仕事に捧げてきて、定年退職と同時にいきなり地域コミュニティに放り込まれました。いったいどこでどうつながって行けばいいのか、その道筋はこれまでほとんどなかったのですから、戸惑っても当然と言えます。この分科会では活躍する5つの団体から男性が活動に参加していくヒントをお話いただきました。

『おんどりクラブ』会長の原藤光さんは「料理をすること、食べること、そして喜んでもらうことが楽しい」と報告。独自の帽子やエプロンを用意し、「ちょっとかつ

こいいワクワク感が男性の参加のポイント」と話しました。

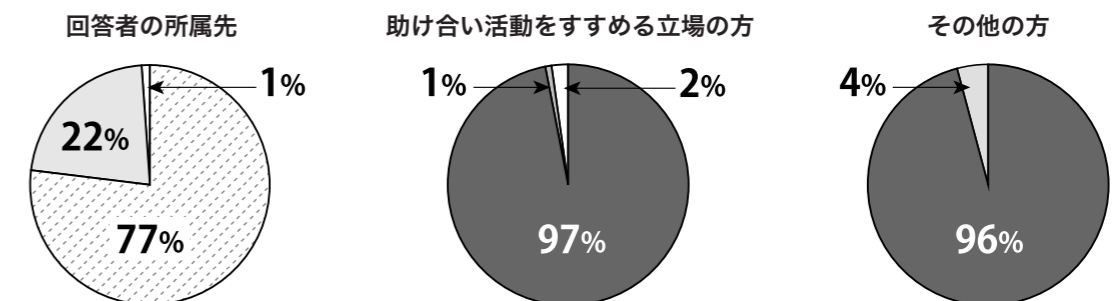
『おやじの会「いたか」』世話人の大下勝巳さんは「難しいことは考えず、自分でできること、やりたいことをやって地域の役に立つ。この循環が大切で、自己実現は他己実現から。仲間づくりと出番とが大切」と話しました。

『みんなのくらしターミナル』代表理事の初鹿野聡さんは、「女性は集まること自体が楽しみで目的になる。男性は目的のために集まります。その違いを理解することが大切。男性は社会的課題にかかわる意義が明確なほうがよい」と語りました。

都市型農園を社会参加の場として活躍する『豊中あぐり』の戸谷友隆さんは、「手伝ってほしいと声をかけられたことから、次々と人間関係が広がっていった」と。

最後に『ふれあい天童』理事長の加藤由紀子さんは「褒め上手の女性の力が大切。助け合いに参加する男性には言いすぎるくらい感謝の気持ちを伝えています」と語りました。

アンケートの結果 参加者概数：380名 回答者数：217名



寄せられた声から

- ・それぞれとてもよかった。
- ・勝部さんの問いかけが、実践的であった。男女交際の場（つどい場）を考えています。「おやじの会」「九州つなぎ隊」これは参考になった。「役立つ」は、キーですね。この分科会、楽しく力になった。
- ・女性がポイント。男性はフラットな状態を好む?

